

景況感の改善が続く中、 ユーロは持ち直し傾向に

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

7月以降、外国為替市場で、ユーロが米ドルや円に対し堅調に推移しています。

欧州の銀行のストレステスト(資産査定)結果を波乱なく通過したことや、足元で発表された経済指標において、欧州の景気回復を示す内容のものが相次いだことが背景にあるようです。また、29日には、欧州委員会が発表した7月のユーロ圏の景況感指数が101.3と、市場予想を上回る改善となったことや、ドイツの失業率が7.6%と、ほぼ2年ぶりの水準まで低下(改善)したことがユーロ相場の追い風となりました。

ほんの数カ月前までは、欧州の財政問題が長期化の様相を呈していたことから、欧州経済が危機的な状況に陥り、加盟国の脱退など、ユーロの事実上の崩壊を招きかねないとの見方も出ていました。しかしながら、現時点ではそのような懸念が大きく後退し、欧州景気の改善を示す経済指標を好感するような動きとなっていることは、金融市場の緊張感が解けつつあることを示していると考えられます。

そのため、今後も、景況感の改善が続き、ユーロ圏景気の持ち直しの確度が高まるようであれば、ユーロも徐々に値を戻す展開になると考えられます。

なお、ユーロ圏の景況感指数を国別にみると、ドイツの改善が目立っており、ドイツの堅調な数字が全体を押し上げていることがわかります。ユーロ圏のGDP総額に占める割合が3割近くに達するドイツの景気の回復が、引き続き、ユーロ圏全体を見る上で重要になりそうです。

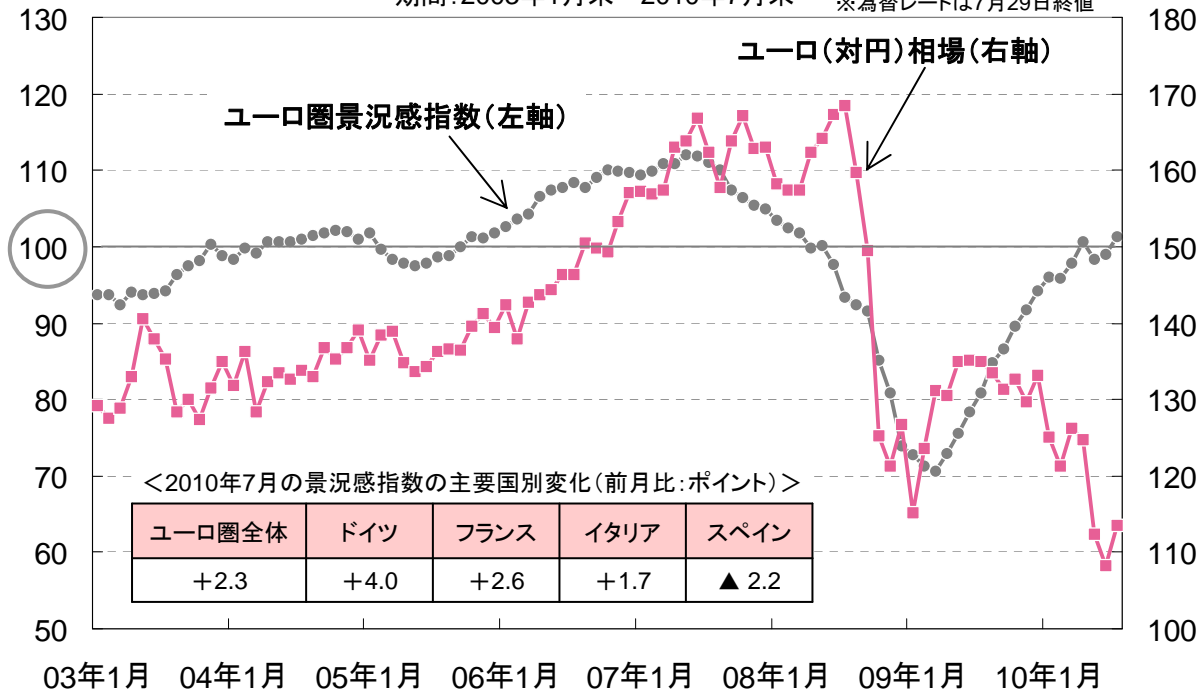
ユーロ圏景況感指数とユーロ(対円)相場

(1990年～2009年の平均=100)

期間: 2003年1月末～2010年7月末※

※為替レートは7月29日終値

(円/ユーロ)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。